

どうする？

市内の交通渋滞！

市民の皆さんは満足度調査アンケートで、生活基盤となる道路網の整備を最重要課題に挙げています。

現実はどうかというところ、市内の国道・県道・市道の整備は遅れており、結果、交通渋滞を招いています。

群馬県警によれば、太田市には主要交通渋滞路線が七路線もあるそうです。特に国道407号線や前橋館林線(通称本町通り)の渋滞がひどく、渋滞を避けて狭い生活道路に入ってくるドライバーも多く、二次的な渋滞や交通事故の原因にもなっている状態です。

渋滞原因の一つに市内中心部の南北道路の少なさや市内中心部にSUBARU本工場あることなどが挙げられます。

太田市は工業製品出荷額も全国十三位と高く、物流量も増加し、国税や県税の納税額も高いはずで

行政は市内の交通渋滞解消に向けて国や県に更なる働きかけや努力をするべきではないでしょうか。そういった意味で9月議会で質問させて頂きました。また、道路整備予算も十分とは言えず、区画整理

事業と絡めて迅速な対応を要求しました。

危険な道路の整備を

本町通りは18m幅ですが、本町通り1丁目から栄町・新島町まで(SUBARU正門から南門周辺)は9mと道路幅が狭く歩道もありません。当然、退社時には交通渋滞と駐車場に向かう社員の皆さんで大変危険な状態が続いています。

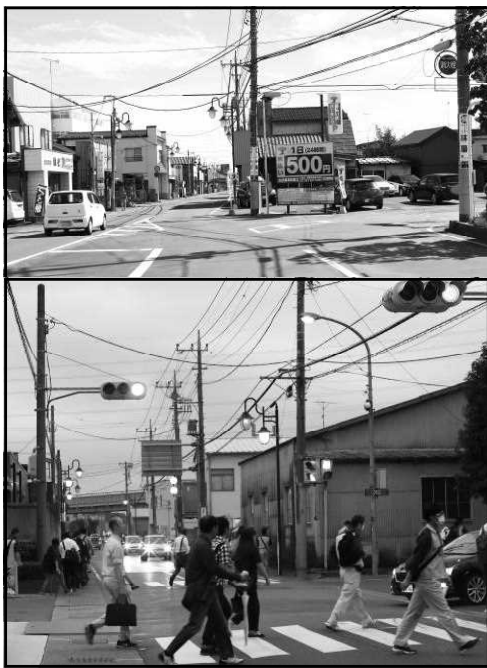
実際に現場を見て頂ければ分かるのですが、歩道なしの2車線道路に道路の両側に歩行者という状態です。貨物トラックでも来れば最悪な状態です。重大事故が起こらない方が不思議なのです。市民の要望や交通安全上の要望はこういった実態から来ているのです。

ここは区画整理区内であります。当初予定の18m道路に拡張すべきです。

太田駅周辺の土地区画整理事業とこの危険な道路とは切っても切れない関係なのです。

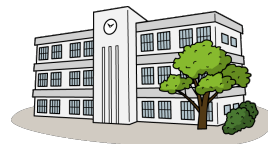
この事業は、平成八〇三三年の二五年間で完成させる予定でしたが、二〇年経過した今年までの進捗状態は何と二〇%で、このまま行けばあと八〇年もかかる計算です。

この事業は太田市の施策ですから、もつとスピード感を持って進め、現場に出かけて努力をすべきではないでしょうか。



また、SUBARUさんに社員の皆さんの安全と円滑な輸送のためにも協力をお願いすべきです。それが市民の要望でもあると思います。

公共施設のミニマリスト



太田市が保有・管理している公共施設は、全体で五二四施設、一五〇九棟、八五九、二〇八m(平成二六年度末現在)という数字になります。

主な施設のランニングコスト(光熱、修繕費のみ)を合計すると年間一億七千数百万円以上になります。また、現在建設中の市民会館と北口駅前美術館・図書館が出来上がると更に二億円程のランニングコストが上乗せされることになり。 (人件費は含まず) 施設のランニングコストというのは維持管理が必要なので下がることはありません。

市民に必要な施設設備が殆どですが、利用頻度が低い施設や用途が重複しているような施設は統廃合が必要になってくると思います。

ここで紹介した数字は控えめですが、税金から支出されるものです。私たちが市民も行政もコスト意識を持って臨む必要があり。少子高齢化が不可避ならば尚更のことです。市民の皆さんもお考えください。

放置できない、「空き家時代」の到来!?

「空き家対策特別措置法」が平成二十七年五月に成立しました。解体勧告や行政代執行の対象となる「特定空き家」が、太田市では八月十日現在十八件が指定されています。この「特定空き家」は今後増えることが確実だそうです。「特定空き家」に指定されると、住宅用地の特例から除外され、勧告を受けると固定資産税は六倍、都市計画税は三倍となり、税金は一気に五倍強に跳ね上がります。やっと行政が対策に本腰を入れ始めました。

〈空き家のQ&A〉

AQ 空き家ってどんな状態の住宅?
以前は人が住んでいたのに何らかの理由で住まなくなり、そのまま放置されている住宅で、全国に約820万戸ある。

AQ どうしてみんな放置しているの?
所有者がそもそも空き家ではないと考えている例が多い。

Q 「空き家対策特別措置法」の特定空き家とは?
そのまま放置すれば倒壊するなど著しく保安上危険となる恐れがある。著しく衛生上有害となる恐れがある。景観を損なっている状態。放置している状態が不適切な状態。



高齢者の交通事故にご用心!

高齢者事故の三割超が「安全不確認」といわれています。最大の理由は老化ですが、視力の衰え(老眼、夜間視力、視野狭窄など)により、左右確認がしづらくなるため真横から来る歩行者を巻き込んだりケースが多くなるそうです。また、多くの高齢者は自身の運転技術を過信している場合も多く、一時停止をしなくても徐行で大丈夫という見込み運転になっていることも多いそうです。「安全確認」は安全運転の第一歩です!



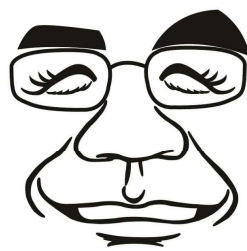
奨学金制度のあれこれ

最近、奨学金制度について様々な報道がされています。返済型の制度を利用し、借入金総額五〇〇万円、卒業後の返済は月々三万円、三〇年後返済予定、という方、「学生時代のツケを返すために働いている感じ」という。返済が滞っている延滞者は、二〇一四年度末で三二万八〇〇〇人で、背景には賃金の伸びの鈍化や非正規雇用の拡大があると言われています。その結果、結婚や人生設計に狂いが生じている人が増えているようです。

ここまでは、もう社会問題です。借りたいのも返すのも、返済のしやすさ、奨学金制度が普及しないのでは、ないでしょうか? 交付型の奨学金制度は、返済のしやすさ、奨学金制度が普及しないのでは、ないでしょうか?

太田市水道局↓「群馬県東部水道企業団」

なぜ三市五町の広域化を図るかということ、人口減少や少子化に伴う料金収入の減少、施設設備の老朽化が挙げられます。これによって業務の効率的な運営や無駄な投資の抑制、国の補助制度の活用ができません。今年四月一日から実施されております。※三市五町↓太田市、館林市、みどり市、大泉町、千代田町、邑楽町、明和町、板倉町



大川よういち・活動のご報告

ご存じのように平成27年度は、太田市議会議長を拝命し、同時に群馬県市議会議長会々長と関東市議会議長会副会長としての活動もして参りました。

県市議会議長会の活動

- ①豪雨発生時の石田川堤防の危険性から、堤防のかさ上げをするよう要望書を県知事に提出しました。
- ②太田市外三町広域清掃組合定例会により、ゴミ焼却炉の新炉建設スケジュールが決定しました。
 - 入札受付 平成28年9月 ●施工者決定 平成29年3月
 - 設計・建設 平成29年6月～平成33年3月
 - 完成・稼働 平成33年4月

関東市議会議長会の活動

在任中、県内だけでなく関東各市に出張することも多く、他の自治体を訪れましたが、情報交換に留まらず、外から太田市を見たり考える機会に恵まれました。

- ひとつの市が複数の選挙区を有することをできるだけ少なくすることを、都県議案として関東市議会議長会に提出しました。

(薮塚地区が群馬二区)